

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡—太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046

https://sanken-
hiroshimaorg/

一口メモ

▼前倒し
四月一日、三段峡で雪が舞ったが、暖冬のためイチリンソウ、フ

ドリンドウなどの山野草が例年より早く咲いた。木々の枝先が薄赤く染まり、柔らかな緑に彩られる日も近い。

峡谷開きがこれまでで一番早い四月十三日になった。すべてが前倒し、観光シーズンも駆け足でやって来る。

雪割草の群落数か所確認 カエルの産卵池見つからず

暖冬で雪が少なかった三月、植物とカエルを観察する二つの「歩く会」を企画した。ケスハマソウ（雪割草）の群落を数か所確認したが、カエルの産卵池は見つからなかった。

「歩く会」2題

草花を地図に記録

その季節にしか見られないエコツアーリズム素材を探

「歩く会」が三月十一日、さんけんメンバー五人が参加して開かれた。正面口から水梨間で観察し、ケスハマソウやダンコウバイ、マンサクなど春の草花をマップに記録した。

石樋で池を観察したり説明を聞いたりする「カエル歩く会」参加者



温暖化の影響学ぶ

カエルを観察する「歩く会」が三月二十四日、小学生三人を含め八人が参加して、

発見できなかった。

小林久哉副理事長は「その時期ならでの素材を生かしたツアーを企画したい」と意気込んでいた。

午後にはフィールドワークでヒキガエルの産卵場所を探したが、産卵している池は発見できなかった。

テングゴウモリ発見 冬眠中 三段峡では初めて

カエル観察の途中、冬眠するテングゴウモリが庄兵衛岩洞門の天井部で見つかった。小林副理事長が発見し、上野吉雄さん

が分類上の所属や種を確認した。上野さんは「三段峡は侮れない」と、驚いていた。捕獲せずに撮影した。ヒナゴウモリ科の日本固有種で広島県絶滅危惧Ⅱ類。芸北では見られるが三段峡、安芸太田町では初めて観察された。



瀬尾淳さん(左)の解説を聞く出席者

NPO 特例認定 報告会

目標や活動など発表 会員中心に四十人が出席

さんけんが二月に取得したNPO特例認定の報告会

が三月二十一日、さんけん会員を中心に四十人が参加して、広島市内で開かれた。

「組織と特例認定NPO」について解説した。活動報告ではさんけん会員の上手新さんが「深入山のチョウ類」について発表し、小林久哉副理事長が三段峡の見どころを動画で紹介した。

議長は祝辞に続き、本宮炎副理事長が「さんけんの取り組みと目標」、瀬尾淳副理事長が

さんけん新聞に掲載された共感する記事への投票やアンケートを実施、今後の活動や紙面づくりに生かす。

薪ボイラーのワークショップ 薪を投入し 床暖房体感

薪ボイラーのワークショップが三月二十三日、薪ボイラーを使っている安芸太田町上殿の影井雄一さん宅で開かれた。講師は影井さんと設置事業者の木下博志さん。十一人の参加者は薪を投入し、使い方や燃費の説明を聞き、床暖房を体感した。

南峰と歩く

⑳ 五郎堰(ごろうぜき)

「四辺は幽谷的」木流しの現場

河鹿屋敷の分岐を左にとつて横川を遡り、楓林館跡を過ぎてさらに進むと、地形は段々と険しくな

わ大きな石がウラジロガシなどを頂き、孤島のようになった景勝である。

昔 川側の木を伐採

十分に見渡すためには川辺まで降りなくてはならないが、不安定な大きい浮石を伝って行くしかなかく、大

変危険である。探勝路の下流から眺める位置に「五郎堰」の札がかかっている。昔はよく見えたと思われるが、現在は木々が茂っている。是非ともかく、当時は川側の木を伐っていたと推察される。

枯れた数本の大木が、ウラジロガシなどの茂りの中から枝を突き出している。これが榎(エノキ)なのかもしれない。ただし、三段峡で見

れるのはエゾエノキである。五郎堰の由来を南峰は何も残していない。堰と名の付く場所は、峡内にいくつもあり、木流しに由来すると言われている。ここにも

たのだろう。(松尾 俊孝)

茶陶制作が縁 会員に

山手 園子さん

この人



社会保険労務士の専門性を生かした社会貢献活動として、さんけんに参加している。特例認定NPO法人取得の際は事務局をサポートする欠かせない存在だった。

茶道上田宗箇流「正教授」の顔を持ち、広島修道大学茶道同好会で指導しているのが縁で、さんけんへ誘い込まれた。困っている人を見ると放つとけない性格だ。

「三段峡は自然の癒しを与えてくれる場所」。訪れた人が安芸太田町で長い時間楽しんでくれるようになって欲しいと話す。(炎)